森林環境教育　飯塚市立　八木山小学校　　令和２年６月26日

「学校で、“おそとじかん”を楽しもう!!」

当日の朝まで天候の心配。こんなに「雨よ、降らないで」と思ったことはなかったかもしれない。というのも、新型コロナで延期になった今回の活動。運動場から見渡す山の景色も校庭のサクラも美しい春に休校となり、子供たちは家で過ごさねばならなかった。外で友達と遊ぶこともなかなかできなかった時期を経ての野外活動。できれば予定通り外で楽しく過ごしたかった。

「自然っていいな、友達っていいな、学校ってやっぱりいいな」と感じてほしい、というのが今回のテーマ。雨にならなかったことは本当にうれしかった。

参加児童数は全学年で 15 名(2 名欠席)。4 つの班に分かれ、先生方も加わってくださった。「八木山小・植物のひみつ わくわく 発見ツアー」と題して、運動場と学校裏手の森をフィールドに植物観察。こちらからの発信だけでなく、子供たち自らの発見・発言大歓迎。そのせいで、観察ポイントから外れ、カエルを追いかけたりもしたが、友達と自然の中であそぶ楽しさを思い出してくれるのなら本望である。

観察だけではなく、大きなケヤキの木の高さを、道具を使って測ってみる「高さ当てクイズ」や、裏手にある静かな森で五感を使う「音いくつ」(ネイチャーゲーム)を盛り込んだ。鳥の声が聞こえたというだけでなく、何種類の声が聞こえたとか、かすかな風の音に気がつくなど、子供たちの感覚の繊細さに改めて驚く。感覚と言えば、観察中、特に反応が大きかったのは、「いい香りのする葉」や「食べられる実」など、五感で実感できるもの。また、ツガやチャノキの可愛いらしい実を、大切に持って帰っている子もいた。アクセサリーを作るとか。こんな風に、自分なりの遊び方、楽しみ方を見つけると、自然への興味の扉が大きく開く。その扉をいくつ開けてあげられただろうか。終わってみると、あれもこれも伝えたかったと情けなくなることもしばしば。そういえば、タイサンボクの花が、手の届かない高い所にあり、その芳香を確かめてもらえなかったことも心残りだ。

観察ツアーが終わると、最後は「森のお話」。担当の常藤さんが、八木山小に近い龍王山をモチーフにした紙芝居を作ってくださった。龍の伝説から森のはたらきへと話が展開。低学年にとっては難しくなりがちな森の機能の話も、なじみやすいものとなった。1 年生の女の子が、話を聞きながら「かわいい」と一言。この絵とともに森の話が頭の片隅に刻まれたのではないかと思う。

また、今回は新型コロナ対策として、藤原さんに安全管理スタッフとして参加いただき、私たちは安心して活動することができ、とてもありがたかった。だが、一日も早く終息して、「マスクもしなくていい、大好きな友達とくっついてもいい、大声でおしゃべりしていい」日が戻るといいなと思う。

「おうちじかん」は、今はとても大事。でも、楽しい「おそとじかん」は子供たちにとって昔も今もずっと大事。ルーペを真剣にのぞき込む姿、小さく咲く花を見つけてキラキラする瞳はかけがえのないもの。どんな時も、自然はいつでも近くにいる友達だと気づいてくれたのならうれしい。

<スタッフ　諸石、大森、常藤、藤原、後藤>